

## 韓国薬学研修報告

堺 陽子

### 韓国研修引率

#### 概要

平成28年8月23日～26日まで韓国薬学研修を行った。2日目の8月24日、25日は東亜製薬や京畿道安山市にある漢陽大学校薬学大学を訪問し、その附属病院とその関連の調剤薬局でも研修を行った。見学した施設の概要について報告する。

#### 東亜 ST 天安工場

1932年に設立され、長い歴史と高い技術力を持つ企業であり、日本の企業ではアステラス製薬株式会社、資生堂や塩野義製薬などが主要な取引先となっている。生産商品は、医療用医薬品から一般用医薬品、さらには栄養ドリンクなど幅広く、中でも「バックスD」は1年間で平均約5億本を売り上げる、大変人気の高い栄養ドリンクであった。また、医薬品の製品化までの製造工程を現場で教わることは、学生にとってより実践に近い知識の習得に繋がったのではないかとと思われる。ただ、日本の大手製薬工場と同様の規模と仕事内容であった。



#### 漢陽大学

京畿道安山市に位置する本大学は、大変広大な面積を保有し、薬学部キャンパス内においては、最新設備が整い快適な施設であった。また、各学年は、30人の学生で構成されており、全体でも150人程度と少人数制であった。カリキュラムは2+4年で構成され、1-2年生は一般共用科目、3-6年は専門科目を履修する。本大学院への進学率は非常に高いため、資金や人手の面で充実しやすく、研究しやすい環境が整っていた。私事ではあるが、本大学教員の一人が私の知人と繋がりがあったため、コアな話題で盛り上がることができ、学生と同様、私も大変嬉しく楽しい大学訪問となった。





### 連携調剤薬局

漢陽大学と関連のある3つの調剤薬局へ訪問した。3店舗とも薬剤師1名、事務員1名であり、間取りは小さく、地域活動に力を入れている点で共通していた。そのうち2店舗において、漢陽大学生が実務実習を行っていた。日本との違いは、大型チェーン店ではなく個人経営が多いため、休みがなかなか取りにくいこと、個人の給料や薬剤師の地位は日本よりはるかに高いことが挙げられた。また、PTPシートでの販売はあまり行わず、一包化が主であった。近年、薬局薬剤師は、白衣の着用が義務ではなく、服に名札や名前が入っていれば、薬剤師業務に携われる風習となった。日本の調剤薬局との異なる点を微弱ながら確認できた。



### 付属病院

本病院は、漢陽大学ソウルキャンパスに位置しており、膠原病・リウマチ科を主要としている。また、近年、救急にも力を入れ始め、搬送された患者さんの全てを一元管理できるよう、その奥には入院施設まで設置されていた。私が非常に驚いたのは、パート長や夜勤専任の薬剤師が存在することであった。韓国では日本が重きを置くチーム医療や在宅医療に関して、あまり発展しておらず、疑義紹介に関しても看護師を介して医師に伝えてもらうなど、薬剤師の仕事に対する価値観または進歩に違いを感じた。



全体を通して

私は、今回初めて引率という立場で韓国研修に参加したが、非常に有意義な経験だった。それは、日本における薬剤師の職能が、韓国という比較対象国ができたことで、より明確化されたからだと思う。韓国の医療に対する温故知新の理念は、日本も見習わなければならない思考だと感じた。私は、病気になる前に対策を行う、「予防」の観点に着目し、今後の医療の発展や大学教育につなげていけたらと思った。このような機会を与えて下さりました、大学関係の皆様にお礼を申し上げます。

